

妊婦さんは誰もが安全に出産を迎え、わが子が丈夫で健康に育つことを願っていると思えます。しかし、妊娠期の口内の不健康な状態が周産期の問題と関連することを知っている妊婦さんは、まだまだ少ないのが現状です。

徳島大学病院での調査から、4歳以上の歯周ポケット(歯の



徳島大学病院歯科衛生室 日野出 大輔 室長



徳島大学病院歯科衛生室

周囲の溝)がある歯周病の妊婦さんは、健康な妊婦さんに比べて低体重児出産のリスクが6倍ほど高くなる傾向が認められました。歯周ポケット内での病原細菌の感染により血流を介して直接的に、あるいは産生された炎症性物質などが間接的に胎盤・子宮に影響するためと考えられています。

低出生体重児は心血管障害による死亡リスクが高く、また成人になってからメタボリックシンドロームになる可能性が高まるので、その予防は重要です。

徳島県内の1800人以上の

妊婦さんを対象とした調査において、定期的な歯科健診を受けている方は全体の3分の1にとどまっています。母子健康手帳

には「妊娠中と産後の歯の状態」を記録するページがありますし、2012年度からは「歯周病は早産などの原因となること」があるので注意し、歯科医師と相談しましょう」と記載されています。妊娠中の母親に虫歯菌が多ければ、子供に移って乳歯の虫歯が多くなることが知られています。

妊娠期に歯科医院で歯の治療やクリーニングを定期的に行うことは、妊婦さん自身の歯周病や虫歯の治療・予防に加え「健全な出産」や「マイナス1歳からの虫歯予防」にもつながります。

妊娠中でも、中期以降の安定期の歯科治療は母体に対して問題ないとされています。ぜひとも妊娠中、できれば妊娠前から「かかりつけ歯科医院」で定期的な歯科健診を受けるとともに、ブラッシング指導や歯石除去などの必要な処置を受けながら、健全な口内の状態で出産を迎えてください。

妊婦歯科健診 健全な口内で出産を